



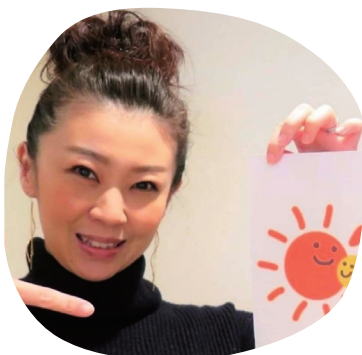
2022 年次報告書

Annual Report
2022~2023

NPO法人 Solways



代表あいさつ



ソルウェイズの設立から6年が経ちました。
「生まれ育った地域で、どんな重い障がいがあっても生きる」を法人理念に掲げ、
障がい児者、医療的ケア児者の地域生活に何が必要か、当事者、そして
ご家族のニーズに応えながら事業を展開して参りました。

私は、事業所に来てくれた利用児者のみなさんが1日の活動を終え、入浴を済ませた子はピカピカの顔で、
学校帰りから利用していた子どもたちはちょっと疲れた顔で、
また成人のみなさんはお仕事を終えた充実感あふれる顔で…
そんな帰宅姿を見送ることができる日々を何より嬉しく感じています。
同時に、設立当初には想像もできなかったほどの障がいの重さ、必要な医療的ケアの多さに、
あらためて私たち法人の使命を感じています。

ソルウェイズは、重症心身障がい児に特化したデイサービスから始まった法人のため、「重症児デイサービス」としての
印象が強いですが、実は居宅介護事業や、特に、訪問看護ステーションが事業の柱となっています。
訪問看護ステーションは、NICU を退院したばかりの赤ちゃんから障がい児者・ご高齢の方まで、幅広いニーズに
応えています。それでもまだなお、重い障がいや医療的ケアのある子ども(者)の「地域で生きる」を支えきれていない
のではないかと……ソルウェイズは次のステージへステップアップしなければならない、そう考えています。

私がこの事業を始めた時から願っていること、それは、
「どんな重い障がいがあっても、子どもは子どもらしく。
可愛い可愛いと言って育てていける、そんな社会になって欲しい。」

重い障がいや医療的ケアのある子どもが生まれたご家族は、「この子の将来はどうなるのだろう。」「次はどんな治療を
することになるのだろう。」「歩けるようになるの？寝たきりのままなの？」「この子のためのサービスをいつまで探し続け
ればいいの？」……ずっと不安の中にいます。

ご家族の不安な気持ちにもっともっと寄り添い、家族も子どもたちもみんなが笑顔で過ごせる、子どもたちはその子ら
しく生きていける、ソルウェイズはそんなあたりまえの社会をめざし活動を続けてまいります。

代表理事 運上 佳江

もくじ

● 代表挨拶	1	● 活動紹介	9-12
● 団体概要・2022 年をふりかえって	2	● 数字で見るソルウェイズ	13
● ソルウェイズのこれまで	3	● 2022 年決算報告書	14
● 管理者の声	4	● 2023 年活動計画	15
● ソルウェイズのこれから	5.6	● ソルウェイズを寄付で応援	16
● 北海道の医療ケア児の 未来を拓くプロジェクト	7.8	● 協賛企業	17
		● 発起人賛同人	18-22

団体概要

NPO 法人ソルウェイズは、医療的ケアのある重症心身障がい児を在宅で介護する母親たちが集まり、子どもたちの居場所を作りたいと
2017年1月に立ち上げました。立ち上がった当時は、重い障がいがある子どもを預けられる施設や利用できるサービスが少なく、支援
不足は社会的孤立の大きな要因となっていました。そこで、札幌市近郊に暮らす重い障がいや医療的ケアのある子どもとその家族のニー
ズに応えながら、医療や福祉、療育など多分野のスペシャリストとともに、2017年に重症児デイサービス「ソルキッズ」を開所。
その後もさまざまな支援サービスを展開し、現在ではデイサービスを札幌市と石狩市に5箇所運営するほか、生活介護や居宅介護、訪問
看護の事業所を展開してきました。そして2022年より団体の歩みは新たなフェーズに入り、地域で支えていく仕組みづくりを北海道全
体に広げていくことを目標に、「北海道で暮らす医療的ケア児の未来を拓くプロジェクト（通称、いけプロ）」をスタートしました。

NPO 法人ソルウェイズ事業所一覧

- 重症児デイサービス ソルキッズ
- 多機能型重症児者デイサービス モアナ
- 重症児デイサービス リノキッズ
- 重症児デイサービス あいキッズ
- 重症児デイサービス ラナキッズ
- 訪問看護ステーション あみえる
- 居宅介護事業所 リマ



2022 年をふりかえって

2020年から流行した新型コロナウイルス感染症との生活が、自粛から With コロナへと
変わり、世間は少しずつ日常を取り戻していきました。
私たちは、日々送られてくる行政からの通達と現実とを照らし合わせながら、重い障がいや
医療的ケアのある子ども(者)やご家族の社会活動を止めないように、感染対策のルールを
変更し、おでかけやイベントを再開しました。



デイサービスを利用した「お泊り会」は、ご家族から、「きょうだい児との時間を持てた。」「心身ともに休むことができた。」とお声を
いただき、とても好評でした。また、訪問看護スタッフとデイサービスのスタッフが連携して実施したことにより、訪問看護の活躍の
場が、居宅からさらに広がる可能性を感じました。
また、放課後等デイサービスの利用児を集め、日中のデイサービスの活動時間を延長し、夕食を取った後に遊びに出かける「お泊らな
い会」も開催しました。2022年度は藻岩山のロープウェイにお出かけしましたが、夜間の宿泊を伴わなくても、「非常に助かった。」
とのご家族の声が多かったのが印象的でした。
「お泊り会」「お泊らない会」はレスパイト事業の実現に向けたシュミレーション事業としても重要なイベントとなりました。(赤い羽
根中央共同募金の助成事業)



そして何より2022年度は、北海道の重い障がいや医療的ケアのある子ども(者)がどの地
域に住んでいても地域生活が送れるようにと、ソルウェイズが新たなステージへステップ
アップする第一歩を踏み出した年です。
北海道医療的ケア児者の家族会や、帯広で活動する NPO 法人 U-mitte のご協力をいた
だき北海道で暮らす医療的ケア児者の未来を拓くプロジェクト」がスタート。With コロナ
生活の中でも地域生活を諦めず、そして新たな展開に向けて準備を始めた1年だったと
振り返ります。

ソルウェイズのこれまで

「生まれ育った地域でどんな重い障がいがあっても生きる」

これは私たちの法人理念として打ち出している言葉ではありますが、実はソルウェイズが生まれる前からこの思いは代表の運上佳江の胸の中にあり、今の活動として実を結んでいます。

2012年8月、運上は子ども用車椅子マークのお店「mon mignon pêche」を設立しました。バギーとも呼ばれる子ども用車椅子は、医療機器を積めて姿勢を保持できる仕様になっており、重い障がいがある子どもたちの移動には欠かせないものです。しかし、一見して車椅子ではなくベビーカーと間違われることが少なくはなく、公共施設などで置くことを求められたり、場所をとってしまうため迷惑顔をされることもしばしば。これでは、子どもや家族が外出する意欲を損なう原因になりかねない——常々そう感じていた運上は、ディズニールランドで渡されたベビーカーと車椅子をイコールで結んだイラストが描かれたタグから着想を得て、子ども用車椅子のマークを作りたいと考えました。その思いを福祉用具販売の方に話し、同じく重症児を育てている母親たちとともに「バギーマーク®」を作りました。



まさに、「なければ創ればいい」の第一歩です。可愛らしいデザインのバギーマークは、ウェブサイトを通して日本中の同じ悩みをもつ親の元に届くと同時に、今まで在宅での育児と介護に追われていた親同士の繋がりが広がっていききました。

その後、家族同士がリアルに交流できる場所としてイベントを開催し、バギーマークをきっかけに重症児やその家族を取り巻く現状に関連する報道が加速するなど注目が集まりました。とはいえ、放課後等デイサービスをはじめ利用できる福祉サービスが少ない状況はなかなか変わりません。こうした中、一般社団法人全国重症児者デイサービス・ネットワークの故・鈴木由夫氏や当時衆議院議員だった荒井聡氏と出会い、「重症児や医療的ケア児の親が中心となり、社会で必要とされているサービスを始めた方が早い」という言葉に背中を押され、重症児デイサービスの設立を決意。バギーマークの制作や販売とともに展開してきた仲間たちとNPO法人ソルウェイズを立ち上げる



べく、2016年8月に設立発起人会、10月に設立総会を開催して認可申請をし、2017年1月に晴れて法人登記が完了。それと並行して重症児デイサービス開所に向けて準備を進め、同年4月に未就学児から就学児までが通える重症児デイサービス「ソルキッズ 宮の沢」がオープンしました。

2018年6月にはソルキッズを中央区へ移転。翌年8月には多機能型重症児者デイサービス「モアナ」を北区新琴似に開設し、放課後等デイサービスと生活介護事業所を併設することで、高校卒業後も利用できるサービスへと規模を拡大しました。その後も、2020年3月に南区澄川に「リノキッズ」、同年4月に札幌近郊の石狩市花川に「あいキッズ」を合併、そして翌年9月には北区新琴似に「ラナキッズ」をオープンし、法人の立ち上げから6年で医療的ケアが必要な子どもたちが利用できる重症児デイサービス施設を5箇所開所しています。さらに地域の多様なニーズに応えるべく、居宅介護事業所「リマ」、訪問看護ステーション「あみえる」、居宅訪問型児童発達支援「バンビ」も運営しています。



ソルウェイズ年表

子ども用車いすマークのお店『mon mignon pêche』
『mon mignon pêche』からソルウェイズイベント事業分離
『特定非営利活動法人ソルウェイズ』設立
重症児デイサービス『ソルキッズ』開設
『ソルキッズ』中央区へ移設
多機能型重症児者『デイサービス モアナ』開設
重症児デイサービス『リノキッズ』開設
重症児デイサービス『あいキッズ』開設
居宅介護事業所『リマ』開設

2012

2016

2017

2018

2019

2020

重症児デイサービス ソルキッズ

管理者・児童発達支援管理責任者・
介護福祉士・保育士

出口 明美

広い窓から明るい陽光が室内に差し込む「ソルキッズ」。そこで管理者を務める出口明美は、かつては重症児者の入所施設で20年以上働いた経験のあるベテラン介護福祉士です。運上の思いに共感し、ソルキッズが走り出した初期からともに歩んできました。そんな出口が何よりも大事にしていることが、子どもたちの輝いているところを見つけて伸ばすこと。



「開所当時から家庭的な雰囲気づくりは常に軸となってきた部分で、子どもたちには温かい言葉のシャワーをたくさん浴びてもらいたい。その中で私たちが大事にしているのが、小さな光を見逃すことなくにかく褒めること。そうすることで子どもたちはさらに感情をさらけ出してくれますし、一人ひとりの力を伸ばすきっかけにもなっていると感じています」と話す。また、札幌市の中心部にあることから在宅での生活が始まったばかりの子どもの最初の入口となることが多く、そこからそれぞれの生活に合わせて東西南北の施設を利用するきっかけにもなっています。

居宅介護事業所 リマ

管理者・看護師・保健師

田邊 拓矢

ホームヘルパーが日常生活のさまざまな場面でサポートに入るリマ。昨年8月にリマの管理者に就任した田邊拓矢は、ICUや人工呼吸器の専門病院でのキャリアを経て、呼吸器をつけている方々の在宅生活を支えたいと訪問看護師として働いてきました。訪問看護の場合はサービスに入れる時間は制度上1時間半である一方で、居宅介護は最長で3時間入れるため、支援の幅は広くニーズも高いと感じていると言います。



「介護士が支援に入るので対応できる医療的ケアは看護師とは異なるものの、長く支援を継続できることでさまざまな関わり方ができます。移動支援や通院動向補助だけでなく、家族と子どもが外出する際の準備を手伝ったり、親御さんに代わって吸引のケアをしたり。また、『家族がどうしていきたいか』というところと真摯に向き合い、例えば障がいのある子のきょうだいのサポートにも繋がり、家族全体の生活がより良くなるよう支援入ることをスタッフたちが皆が大事にしています」利用者の大半は子どもであり、長く関わることの重要性を実感しているとも。「ライフステージごとに支援内容が変わってくるので、小さい頃から同じ支援者が継続的に関わることで、子どもも家族も安心して過ごせると思います」。



多機能型重症児者デイサービス モアナ

管理者・児童発達支援管理責任者・看護師

中田 美穂子

児童発達支援・放課後等デイ・生活介護と多機能型の事業を展開しているモアナ。子どもの頃から利用してきた事業所に高校卒業後も継続して通えるため、それぞれのライフステージに合わせたスムーズな暮らしの移行を支える役割を担っています。現在は小学校2年生から22歳の人が利用しています。「生活介護を利用している方々は、コーヒーマグのパッケージデザインや包装などの地域活動を行っているため、彼らの姿は下の世代の子たちの将来の目標にもなっています。また、放課後集まってきた子どもたちは友達と一緒にゲームをしたり、踊ったり、バスケット、かくれんぼ、習字などをし、活動は多岐にわたります」と管理者の中田美穂子。利用者の家族だけでなくスタッフ陣からの信頼が厚い中田は、自身も障がいのある子どもを育てる母親のひとりです。「私自身子どもの障がいがあったときずっと落ち込みました。でも今前向きに子育てができているのは、周りの人の支えと、頑張る子どもの姿、そして日々の生活の中にあるちょっとした笑いでした。ですからその日あった面白いことを保護者の方々と共有することは欠かさず、家族の伴走者の一人として寄り添っていけたら」と話す。



重症児デイサービス あいキッズ

児童発達支援管理責任者・保育士

磯邊 智

「あいキッズでは色々な体験ができる場にあることを意識しています」そう話すのは、保育士としてのキャリアを生かしながら児童発達支援管理責任者としても勤務する磯邊智。現在2歳から小学校6年生の子どもが利用するあいキッズでは、音や光をたくさん感じられる遊びなどを多く取り入れ、呼吸器をつけた子も、動ける医療的ケア児も、そしてスタッフの皆さんも楽しく過ごします。また、積極的に施設の外に出ることも意識しています。「外出の準備に30分かかるとお出かけのハードルは高いのですが、外で桜や鯉のぼりなど季節のうつろいを見に行き、近くの保育園を訪れて子どもたちと交流するなど、できる体験はなんでもしようという心がけを大事にしています」また家族のサポートも大切な役割のひとつ。「急な用事や大変なときに、事業所としてできる限り支援できるよう、融通を効かせながら対応しています。サポートの方法や遊びのアイデアなど、それぞれのスタッフが想像力と発信力に長けているため、頼もしい存在です」。

重症児デイサービス リノキッズ

管理者・児童発達支援管理責任者・介護福祉士

城市 美香

ソルウェイズの事業所の中でも特に若いスタッフが多く、高いチームワークで皆が子どもたちの気持ちを第一に、安全で楽しい場所作りに心血を注ぐリノキッズ。管理者の城市美香は、あいキッズ、ソルキッズ、ラナキッズで働いた経験があり、今回リノキッズに新たに着任しているのが、親のサポートです。



「さまざまな思いを持った親御さんがいる中で、リノキッズを利用する理由は、心身を休めるためでも個人的な用事でもなんでも良いと思っています。子育てをする上で誰かを頼ることは、障がいの有無に関係なく当たり前のことです。また、最近は仕事に復帰するためにデイを利用する人も増えてきていて、リノキッズでも利用児の母親が2名働いています。それぞれが地域の中で安心して楽しく暮らせる環境を醸成していくために、子どもや家族の力になりたいと思っています」。

重症児デイサービス ラナキッズ

児童発達支援管理責任者・看護師

平田 美津紀

ソルウェイズが運営するデイサービスの中で、一番新しい事業所が重症児デイサービスがラナキッズです。「他の事業所に比べて利用児もスタッフも少ないのですが、一人ひとりとじっくり関われるため家庭的な雰囲気があります。体を動かす遊びを取り入れ、利用する友達と一緒に活動をしているのを感じられるよう心がけています」そう話すのは、児童発達支援管理責任者の平田美津紀。平田はICUで7年勤務した経験があり、退院していった子どもたちの生活を常々気にかけていました。ソルキッズがオープンしたのをきっかけに働き初め、ソルウェイズの成長とともに歩んできたスタッフの一人です。



「地域の神社のお祭りなど、人々が集まり楽しむ場に参加する機会を多く持ち、社会に出る機会を増やしていけたらと思っています。先日、近くの公園に行った際には近所の同世代の小学生が声をかけてくれて、子ども同士は自然と共通点を見つけていました。こうした日々の積み重ねが、地域との繋がりを深めていくと実感しています」。

管理者の声

それぞれの事業所の管理者や責任者インタビューを実施。事業所の特徴や心がけていること、活動内容などを聞きました。



訪問看護ステーション あみえる

所長・看護師

岩間 旭

「うちのポリシーは、断らないことです。小児も高齢者も、札幌市全域の利用者さんを受け入れています。訪問看護サービスを受けられない人を出さないためには必要なことです」そう断言するのは、あみえる所長の岩間旭。土日祝日も対応し、365日稼働できる体制をとることはそう簡単なことではありませんが、利用者やスタッフからの信頼が厚い岩間だからこそ可能にしています。「体調管理も含め、排痰、呼吸管理、排便コントロール等々、支援に入った際に行うことは多岐にわたります。しかし、現在の制度に則ってサービスを提供すると、1時間の間にこれだけのことを行わなくてはなりません。今後、地域のニーズに合わせて制度がアップデートされていく必要性を感じていると同時に、自分としては病院みたいに24時間サポートできるような体制を地域につくりたい」人も場所も選ばず、柔軟に対応するインクルーシブなサポートこそが、ニーズの可視化に繋がっています。

ソルウェイズのこれから

どうしてお泊りが必要か？

「子どもは子どもらしく、社会の中で大切に育てられ愛されること」

そんな思いを共にする仲間たちと、障がい児者もそのご家族も、地域の中で安心して普通に生活していける社会づくりを目指して私たちは活動が続けています。

こうした中、「生まれ育った地域でどんな重い障がいがあっても生きる」という法人理念を実現するためには何が必要か常々反芻し、子育てのしやすい社会を作っていくためには、課題を一つひとつをクリアしていくことが、大切な一歩となり、新たな循環を生み出すきっかけになります。障がいの有無に関わらず、子育てのしづらさを感じている人は少なくはありません。地域で暮らす人々の声に耳を傾け、必要とされている社会資源や制度を創り、それがひいては自分に合った選択肢を選べる、より寛容で豊かな社会を醸成していくことに繋がっていくと確信しています。

これまで重症児デイサービスや訪問看護等の事業を運営する中で課題として見えてきたのが、夜間に子どもたちを安心して預けられる選択肢が少ないということ。多くの家庭では夜間の医療的ケアを親が行っているため、その重責を担い続けるライフスタイルは持続可能ではありません。「慢性的な睡眠不足に陥り、体調を崩しても頼る場所がない」「きょうだいじとゆっくり過ごす時間をつくりたい」など、家族からは切実な声が聞かれます。自宅で生活する医療的ケア児が増える中、短期入所施設（ショートステイ）を利用し、お泊まりをすることが必要不可欠です。

しかし、預けられる場所がない現状、ニーズの可視化さえも難しくなっています。家族が疲弊してしまっていたり、外出の機会がそもそもなかったりすると、社会の中での困りごとを行政に届けられなくなります。その結果として、支援が十分に届かないという悪循環が生まれます。この負のサイクルを変えるには、夜間に安心して子どもたちを預けられる場所が必要です。そうすることで、これまでサービスを必要としていた人々の日々の生活に余裕が生まれ、行政に声を届けることができます。そしてそれに伴って制度が変わっていき、短期入所施設などの事業を各地域で増やしていくことに繋がっていくと考えています。

どう解決するか？（ロジックモデル）

ビジョン

あいたい社会像

どんな重い障がいがあっても地域で生きていくことができる社会

ミッション

ソルウェイズの果たす役割

- ① 当事者（重症児者・医ケア児者）▶ 家で過ごすのと同じように、お母さんやお父さんの代わりになる
② 家族 ▶ 親やきょうだいの人生も大切に
③ 地域 ▶ 当事者や家族、スタッフ、地域とともに先駆的に挑戦し、他の地域や事業者のモデルになる



「楽しんできてね」と送り出せる場所づくりを目指して

“お泊まり”

“お泊まり”と聞いて、みなさんはどんなことを想像するでしょうか？保護者不在の中で不安はあるかも知れませんが、ワクワクやドキドキする感情は特別なもの。普段と違うことに挑戦してみることは子どもを成長させると同時に、自立への一歩に繋がります。そして普段は夜間帯も子どもの医療的ケアを担う保護者にとっても貴重な時間となり、社会的な支援の頼り方やその真価を肌で感じられる経験にもなります。そこで私たちは、子どもたちが通い慣れたデイサービスの事業所で「お泊まり会」を実施しました。

あいキッズお泊まり会 2022 8/6 16:00～8/7 10:00

いつも通い慣れている「あいキッズ」で、いつもとは違う夜の時間を過ごす今回のお泊まり会には2人の子どもたちが参加でした。スタッフは9人体制で挑み、1カ月前から準備を始めました。事前に保護者から聞き取った内容で夜間ケアのスケジュールを作成し、当日ははじまりの会をしたのち、はんごうを使ったカレー作りや花火大会、プラネタリウムなど夏の思い出となるイベントで、盛りだくさんの企画となりました。



おわりの会では、保護者に描いてもらった利用児の似顔絵をキーホルダーにし、記念品として表彰状とともに子どもたちに贈りました。保護者からは感謝の言葉とともに「いつも通い慣れた場所とスタッフ、お友達と一緒にだったので不安はなく楽しみでした。ぐっすり眠っていたようでよかったと思うし成長も感じました」「荷物が多くて準備が大変でしたが、近くにショートステイができたら嬉しい」「またこのような機会があったら参加したい」といった声が聞かれました。スタッフは手応えを感じるとともに、改めて家族の負担を減らすことができるサービスが身近にあることや、抵抗なく気軽に利用しやすい関係性をつくる必要があるだと実感。今回の経験から得た反省点は、日々のデイサービスでも活きるものとなりました。

ラナキッズお泊まり会 2022 11/26 15:00～11/27 10:00

とにかく楽しく安心して過ごしてほしい

「おばあちゃんの家泊まりに行く」「お友達とお泊まり会」などをコンセプトに、ラナキッズのお泊まり会には2人の利用児が参加でした。とにかく楽しく安心して過ごしてほしいという願いから、イベントとしてケーキづくりをしました。利用児の笑顔が多く、保護者も楽しい時間を過ごせたようで意義があると実感しました。今回はスタッフ5名で対応しましたが、安全にお預かりするための人数だけでなく、楽しませてあげられる人数も必要なため、コンセプトに合わせたお泊まり会を実現するには、消灯まではもう少しスタッフ数が必要だという発見がありました。





北海道で暮らす医療的ケア児の
未来を拓くプロジェクト

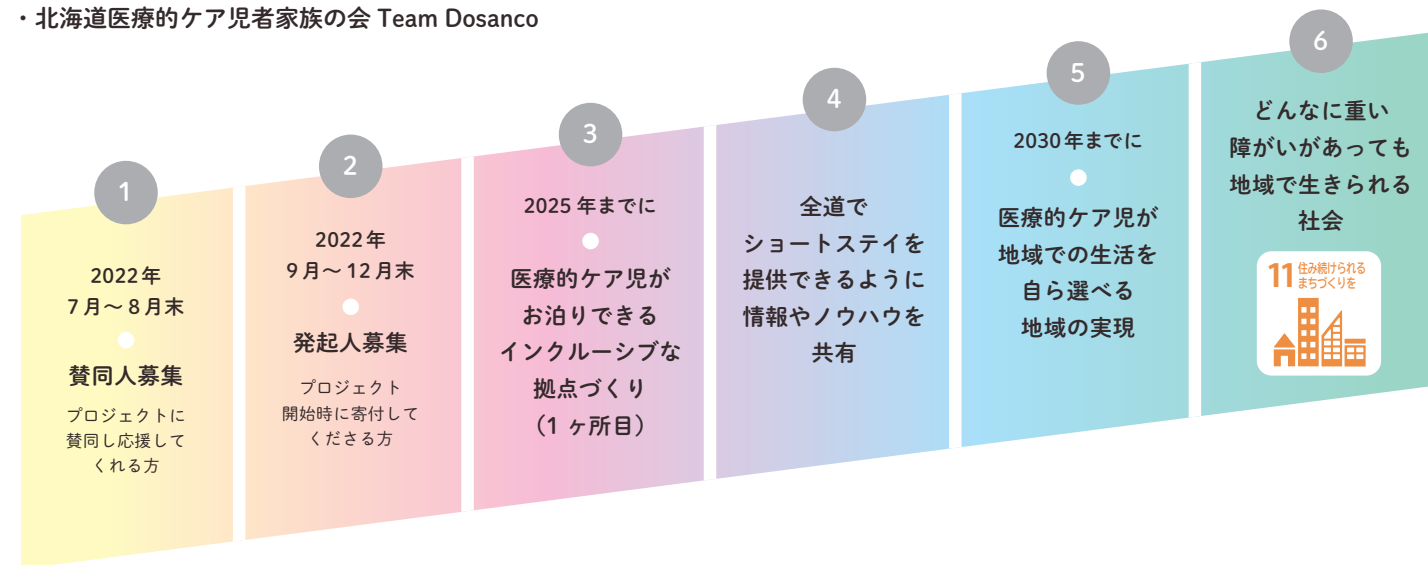
いけプロ 北海道の医療的ケア児の

「いけプロ」スタート！

2022 年よりソルウェイズの挑戦は新たなフェーズへと入り、「北海道で暮らす医療的ケア児の未来を拓くプロジェクト（通称、いけプロ）」をスタートしました。このプロジェクトでは、医療的ケア児とその家族を地域で支えていく仕組みづくりを、北海道全体へと広げていくことを目標としています。

プロジェクトメンバー

- ・ NPO 法人ソルウェイズ
- ・ NPO 法人 U-mitte
- ・ 北海道医療的ケア児者家族の会 Team Dosanco



そこで、プロジェクトの第一弾として、重い障がいがあってもお泊まりができる短期入所施設（ショートステイ）の開業に向けて 2025 年を目標に動き始めました。計画地は札幌市近郊の石狩市花川を予定しており、小児科の専門医が常勤する診療所を併設。これまで重症児デイサービスで培った経験を活かし、人工呼吸器や経管栄養など、医療依存度の高い子どもたちと接してきた看護師やヘルパーが医療的ケアを担うだけでなく、保育士や機能訓練士なども積極的に関わります。お泊まりの時間を有意義なものにすることで、子どもたちや家族にとって第二の家のようなセーフスペースとして利用することができます。家族のレスパイト（休息）としてだけでなく、子どもたちが短期入所施設を介して家族以外の人と交流することは、子どもたちが地域で暮らし、成長していく上でも重要な役割を持っています。

いずれは、今回の石狩市のケースをロールモデルとし、他団体とノウハウを共有しながら北海道全体に拠点を増やしていくことを計画しています。公的なサービスとして、安心して、気軽に預けられる場所がある——こうした一つひとつの選択肢を広げていくことが、医療的ケア児とその家族の暮らしを支える、大きな柱となっていきます。

未来を開くプロジェクト

「いけプロ」のロゴマークが決定！

2023 年 4 月に「いけプロ」のロゴマークを公募し、集まった18 作品の中からプロジェクトのシンボルとなるデザインが決定しました。



「壮大なプロジェクトの過程で、どんな困難にぶつかっても、『一人ひとりと大切に向き合う』という 原点を大事にしていく気持ちを表現しました。」という製作者の願いが込められています。

色味は北海道の雄大な大地をイメージしたグリーン、澄み渡った大空のブルー、人々を温かく照らす太陽のオレンジ、そして力強く根をはる樹木のブラウンからインスピレーションを得て制作されました。

また、北海道医療的ケア児者家族の会 Team Dosanco と、プロジェクトメンバーで十勝の医療的ケア児・重症心身障がい児の支援を行う NPO 法人 U-mitte の各代表が選出した各賞も発表されました。

Team Dosanco 賞には北海道のシルエットに象を組み合わせたデザインが選ばれ、U-mitte 賞にはプロジェクトの中心を担うソルウェイズの太陽をモチーフにしたデザインが選出されました。

Team Dosanco 賞



U-mitte 賞



建築予想図



事業紹介

児童発達支援

放課後等デイサービス・生活介護

看護師や保育士、機能訓練士、心理士、介護福祉士、社会福祉士など、専門資格を有するスタッフがデイサービス事業所に常駐し、喀痰吸引や経鼻経管栄養の注入、気管切開や人工呼吸器などの医療的ケアに対応しています。デイサービスでは、季節の行事に触れる活動やお誕生日会を開催しているほか、音楽療法を取り入れたり、お散歩や買い物体験などを行っています。生活介護事業では、物品製作や販売などを行っています。また、各事業所に入浴設備も備えており、デイサービス利用時に入浴して帰宅することも可能です。自宅や学校への送迎時は、医療的ケアに応じて看護師が同乗します。

- 重症児デイサービス ソルキッズ
札幌市中央区北 10 条西 19 丁目 1-1 越後屋ビル
TEL : 011-676-4557
- 多機能型重症児者デイサービス モアナ
札幌市北区新琴似 9 条 5 丁目 3-16
TEL : 011-299-4433
- 重症児デイサービス リノキッズ
札幌市南区澄川 5 条 3 丁目 9-10 ライオンズマンション 1 階
TEL : 0133-62-5772
- 重症児デイサービス あいキッズ
石狩市花川南 2 条 3 丁目 91-2 あいまち 1 階
TEL : 0133-62-8103
- 重症児デイサービス ラナキッズ
札幌市北区新琴似 9 条 4 丁目 5-17
TEL : 011-299-3979

訪問看護ステーション
あみえる

居宅介護事業所リマ

札幌市北区新琴似 9 条
5 丁目 3-6-102
TEL : 011-500-2871

訪問看護

看護師、保健師、理学療法士等が自宅や施設に訪問し、状態観察や医療的ケア、リハビリテーションなどのサービス提供を行います。何歳でも、札幌市のどこに住んでいても、支援が必要な人のもとを訪れ、多様なニーズに応えられるような体制を整えています。家族やきょうだい児の学校行事に伴った家族の外出時や、保育園に通う医療的ケア児のサポートなど、最大限可能な範囲で柔軟に対応している他、病院と連携しながら退院した際の在宅でのケア指導なども行っています。同じ地域で生きる仲間として、ライフイベントと一緒に楽しみ、笑顔で幸せな日々を送れるようサポートしています。

居宅介護

医療的ケアや重い障がいがあると、朝の身支度に始まり、車椅子に乗せて移動したり、帰宅後に着替えを、家族の力だけでこなしていくことは想像以上に大変です。そこで、介助し、外出時の人手として支援するなど、介護福祉士が日常生活の中にサポーターとして入ります。デイサービスの利用や訪問看護と組み合わせながら使用することができ、長時間利用できるレスパイトにもなります。喀痰吸引研修を受けたスタッフも多く、医療的ケアへの対応も行っています。



特定非営利活動法人ソルウェイズ 法人本部
札幌市中央区北 10 条西 19 丁目 1 - 1
TEL : 011-839-1844

ソルウェイズの活動
その

1



当事者
(重度の障害や医療的ケア児者)



どんな子ども子どもらしく地域の中で育つ

地域の中で育ち生活していくためには、地域の人に医療的ケアが必要な子どもたちの暮らしや活動をもっと知ってもら必要があります。そして子どもたちにとっても、地域の中で暮らしているという実感は重要です。そのためにソルウェイズは子どもたちが、事業所や自宅を出て地域との交流をはかることを大事にしています。2022 年は 10 月に石狩市で開催されたポレポレキャラバンライブに参加したり、日本を代表する祭りのひとつである YOSAKOI ソーラン祭りの新琴似会場を訪れたり、定山溪の春の風物詩「溪流鯉のぼり」を見に行ったり、地域の幼稚園を訪れて畑の収穫を手伝うなどの活動を行いました。他にも、円山動物園、旭山記念公園、サンリオ展、札幌競馬場、紅葉山公園、丘珠空港など、さまざまな場所へお出かけをしています。こうした一つひとつのことが、地域社会との繋がりを育み、社会参加の拡大を後押しすると実感しています。

羊ヶ丘展望台へお出かけ



YOSAKOI 新琴似会場へお出かけ



あいキッズ畑で苗植え



雪遊び



旭山記念公園へお出かけ



お花見



円山動物園へお出かけ



サンリオ展へお出かけ



ポレポレキャラバンライブ



ソルウェイズの活動 2 家族

重症児・医療的ケア児のママたちの「また働きたい」を応援

重い障がいのある子どもを出産したあと、慣れない医療的ケアや育児、介護に追われ、仕事を辞める保護者は少なくありません。そうすると、社会との関わりが希薄になり、復帰をしたいと思っても時間的な制約や子どもの体調に合わせながら働ける場所を見つけることは容易ではないのです。そこで、ソルウェイズでは、保護者の就労支援にも力を入れています。短時間正社員制度を導入し、週 32 時間の労働時間でも正社員になることができ、子どもがデイサービスを利用している間、働くことができます。必ずしも有資格者である必要はなく、できることから少しずつ始めてもらい、短時間正社員の人も役職につくチャンスがあります。また、福利厚生のひとつとして、資格取得に向けた支援も行っています。短時間正社員からフルタイム勤務へとシフトする職員も出てきていて、女性たちのスキルアップやエンパワーメントに繋がっています。現在ソルウェイズでは子どもがデイサービス等を利用しながら働く保護者は 19 人にのぼっています。自身のライフスタイルに合わせてキャリアを築く 4 人の母取材しました。

中谷 絵里

モアナ 介護職員初任者研修と
介護福祉士実務者研修を取得

「自分の子どもがあいキッズに通い、成長していく姿は親としてとても嬉しかったです。この気持ちを広めていくことで、社会に恩返しをしたいです」そう話す中谷絵里は、先天性の障がいのある 3 歳と 7 歳の子どもを育てています。「次男を授かり長男と同じ病気があるとうわかったとき、デイサービスで働くことが自身の使命なのではないかと感じました。その後、佳江さんと話してその直感確信へと変わり、事務的な作業から働き始めました。そのうちに子どもたちと直接関わりながら働きたいという気持ちが芽生え、初任者研修を受け、その後実務者研修も取得しました。子どもたちと過ごす時間がとても楽しいです。中谷はヘルパーとしての業務のほか、歯科衛生士としての経験を生かして口腔ケアを行うなど活躍しています。また、障がいのある子どもを育てた経験も彼女の強みとなっています。「復帰したいと思う人の受け皿や社会的なサービスはもちろん大事ですが、それ以前に母親が社会に目を向けられる状態になるまでの気持ちを支える介入が足りていません。デイサービスはそこを担える場でもあるので、私が支えてもらったように寄り添っていただろう」。

船水 亜美

ソルキッズ 看護師

ソルキッズに通う 6 歳の息子と一緒に出勤し、短時間正職員として勤務する船水亜美。元々は病院で看護師として勤務していましたが、出産を機に退職しました。その後、復帰先を探すものの、子どもの障がいを理由に保育園への入園は断られたため時間の制約があり、融通が利く職場はなかなか見つかりませんでした。こうした中、友人からの紹介でソルウェイズの存在を知り、息子が利用するようになった後、自身も就職しました。「外に出たいと思ったときに、自立できる環境があることは大事だと感じています。児童発達支援の利用時間は 10 時-16 時なのですが、私の勤務時間に合わせて息子と一緒に 9 時-17 時まで利用できるなど、融通が効く環境で働けています。また、発達段階がさまざまな子どもたちと接することで、自身も学びがあり、何よりも子どもたちからたくさんの癒しをもらっています」。

海谷 由希

あいキッズ看護師兼管理者

あいキッズの管理者であり看護師として勤務する海谷さん。10 歳の娘は養護学校に通い、放課後はソルウェイズを利用しています。「娘が 1 歳半のころに進行性の神経発達障害と診断され、娘の通院やリハビリに行く回数が増えたため当時働いていた病院をやめました。でも心の中では仕事を続けたく、夫が家にいる日曜日に単発で仕事をしていましたが、子どもの体調が安定しないため、継続的なものではありませんでした。しかし、あいキッズがオープンする際に一緒に働きませんかと声をかけてもらい、最初はパートから始めました。その後、娘の体調の回復に伴って週 4 日勤務の正社員から週 5 日のフルタイムへと徐々に切り替え、今こうして思いっきり働けていることに感謝がありません。役職がつくことで感じる難しさもありますが、挑戦できる環境は学ぶことが多いです」。さらに、城下さんをはじめ、新たな一歩を踏み出そうとする保護者の姿も、自身の励みになっていると言います。「元々は違う仕事をしていて人が、学校に通い、免許を取り、あいキッズで働くということは、ものすごいことだと感じています。利用する子どもだけでなく、家族の人生の目標と一緒に応援でき、支えられることは大きなやりがいです」。

城下 梓

あいキッズ 准看護師資格を取得

2023 年 4 月からあいキッズの准看護師としてフルタイムで勤務する城下さん。元々は電気通信会社で働いていましたが、第三子出産後に子どもの介護や医療的ケアが忙しくなり復帰の目処がたたず退職。当時は心身ともに疲弊していましたが、1 歳ごろからあいキッズ等を使用するようになり、「同じ業界に飛び込めば、応援してもらえるのではないか」と考えるようになったと言います。そこで、子どもをデイサービスに預けながら 2 年間看護学校に通い、晴れて准看護師となりました。「心身が休めて、自分と向き合える時間ができて、初めて自分の人生が歩める。母親にとって、子どもの人生が自分の人生になってほしくはありません。母親も自分の人生を生きられるよう、選択肢が必要です。今後、ショートステイができる施設に向けて動き出していますが、そこで働くことができる日を楽しんでいます」。

ソルウェイズの活動 3 地域

児から者へ、次のステップ

地域の中で生きていく、自立に向けて

多機能型重症児デイサービスのモアナは、児童発達支援・放課後等デイサービス・生活介護事業を展開しています。子どもの頃から利用してきた事業所に高校卒業後も継続して通い、ライフステージが変化する場面においても、スムーズな暮らしの移行を支える役割を担っています。また独自の試みとして、モアナではデイサービスの普段の利用時間を延長してお預かりをし、夕方お出かけをする「お泊まらない会」を実施しました。少し足を伸ばして、なかなか出かけることができないところまでちょっと遠出。子どもたちは新しい発見を得られるとともに、いつもは医療的ケアなどで慌ただしく過ごす家族にとっても、夕方の時間に出かけたり休憩したりできる機会になります。

お泊まらない会 2022 8/27 15:00～20:00

17 時までの通常の利用時間を 20 時まで延長することで、4 人の利用児とともにゆっくりとお出かけをすることができました。藻岩山展望台のロープウェイやケーブルカーに乗り、札幌の景色をみて自分たちの住む街を知るだけでなく、お小遣いで家族や自分への土産を買うなど、普段はなかなかできない体験を実現。子どもたちはとてもいい表情をしていました。スタッフは 6 名で対応し、事前に見学先と数回連絡を取り、ケーブルカーの臨時便を出して頂いただけでなく、依頼していたスロープの準備もあり、スムーズにお出かけを楽しめました。



入社式

高校を卒業し次なるライフステージへと上がった利用者は、晴れて社会人の仲間入りです。生活介護事業所モアナでは入社式を行った後、1 日の過ごし方や仕事の内容、お客様への挨拶の仕方などの研修を数回に分けて実施しています。名刺の渡し方、受け取り方の練習もしています。



モアナコーヒー

生活介護事業では、「モアナコーヒー」と題したコーヒーを販売しています。事業所の利用者は、コーヒーのドリップパックの包装につけるシールをデザインし貼り付ける作業をしています。近所の方々がコーヒーを買いに事業所へ足を運び、モアナコーヒーを淹れて飲んでもらうウェルカムサービスも行っています。（新型コロナウイルス感染症流行期では中止しています。）



数字で見るソルウェイズ 2022

全事業所の
利用登録人数

106 人

全事業所の
利用登録人数のうち
医療的ケアが
ある人数

99 人

全事業所の
利用登録人数のうち
人工呼吸器の
利用がある人数

41 人

働く機会の提供

自身の子が重症児
医療的ケア児である
スタッフの数

19 人

訪問看護の
提供件数

医療保険

5,870 件

介護保険

3,009 件

デイサービスの
年間平均営業日数

305 件 / 1 年

「いけプロ」の
説明を聞いて
短期入所施設の
必要性を感じた人数

寄付・賛同人・発起人になった方

616 人

家族交流会の
開催場所の
提供回数

2 回 / 1 年

居宅介護の
提供件数

541 件

移動支援の
提供件数

147 件

2022 年 決算報告書

勘定科目			当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減(A) - (B)
経常収益	正会員受取会費		100,000	20,000	↑ 80,000
	受取寄付金		11,280,080	1,598,000	↑ 9,682,080
	受取助成金		7,862,258	2,878,310	↑ 4,983,948
	受取補助金		5,874,114	8,767,659	-2,893,545
	自主事業収益		307,311,279	264,163,460	↑ 43,147,819
	事業収益 1		100,500	116,000	-15,500
	利用料収入		8,455,327	6,436,897	↑ 2,018,430
	受取利息		146	191	-45
	雑収益		1,192,714	1,933,110	-740,396
	経常収益計		342,176,418	285,913,627	↑ 56,262,791
経常費用	事業費	人件費	230,811,568	205,534,202	25,277,366
		事業経費	74,916,908	59,926,333	14,990,575
		事業費計	305,728,476	265,460,535	40,267,941
	管理費	人件費	12,561,162	5,496,735	7,064,427
		その他経費	2,568,022	1,356,952	1,211,070
		管理費計	15,129,184	6,853,687	8,275,497
	経常費用計		320,857,660	272,314,222	48,543,438
当期経常増減額			21,318,758	13,599,405	7,719,353
経常外収益計			0	0	0
経常外費用計			0	948,000	-948,000
税引前当期正味財産増減額			21,318,758	12,651,405	8,667,353
法人税、住民税及び事業税			1,057,300	230,000	827,300
当期正味財産増減額			20,261,458	12,421,405	7,840,053
前期繰越正味財産額			14,777,368	2,355,963	12,421,405
次期繰越正味財産額			35,038,826	14,777,368	20,261,458

正会員受取会費

前年度の正会員会費未納者が8名いましたが、年度内に退職している会員もあり、徴収は行いませんでした。

受取寄付金

「いけプロ」こと「北海道の医療的ケア児の未来を拓くプロジェクト」を開始し、寄付者が増えたため増収となりました。企業から900万円以上の寄付もあり、定期的に寄付して下さる方もいます。来年度も個人・企業からの寄付を集め、認定NPO法人を目指します。

受取助成金

当年度は、赤い羽根中央共同募金会・三菱電機創立100周年記念の助成金で、ショートステイのシミュレーションとしての「お泊まり会」を2回、長時間の預かりへのステップとしての「お泊らない会」を2回、訪問看護の制度外の長時間利用を792回行ってます。MDRT日本会QOLG助成金では、医療的ケア児の母親の学校付き添い問題や介護する母親の日常生活をテーマとした写真展「透明人間」の開催をしました。

受取補助金

前年度は重症児デイサービスラナキッズの新規開所があり、札幌市重症心身障害児地域生活支援事業の補助金がありました。当年度は、石狩市に在住の利用児が増えているため、石狩市医療的ケア児受け入れ促進事業の補助金が増収となっています。

事業収益 1

多機能型重症児者デイサービスモアナの生活介護の利用者の活動として、包装のデザイン、貼り付け、販売をしている「モアナコーヒー」の売り上げです。当年度は201バックを販売しました。生活介護の利用者にも製作代を還元できました。

事業費 人件費

当年度の従業員数85名うち、役員報酬1名、正職員41名、非常勤43名です。

管理費 人件費

職員数や事業規模が大きくなり、事務員を増員しています。報酬の請求、社会保険等の手続き、給料計算、法人の会計業務を自社で行っています。そのため、運営に関わる人件費が多くなっています。

経常外費用

前年度の経常外費用は過年度損益修正損です。（札幌市に補助金を返還しました。）

2023 年度活動計画

重い障がいや医療的ケアのある子ども（者）の主たる介護者となる母親は、社会から孤立してしまうという課題があります。その課題を解決するために、「当事者」（重症児や医療的ケア児者）たちを、できるだけ多く受け入れ「家族」一人一人の伴走者となれるよう、通所事業の 5 事業所、訪問看護ステーション、居宅介護事業所の運営を、事業所の枠組みを超えた一つの体制として運営してまいります。

また現在進めている「いけプロ」を成功させるべく、ショートステイが「地域」に必要であること、価値を認識していただくために啓発活動をし、寄付を継続して集っていききたいと思います。

1 ソルウェイズの活動 その 当事者 重度の障害や医療的ケア児者

「親から離れても不安なく過ごすことができる経験をつくる」

- 新しい試みとして、遊び等の活動を通じて発達や成長を促し、主たる介護者の母親の育児や介護のサポートをする居宅訪問型児童発達支援を開始しました。コロナ禍もあり、現在の利用児は 0 ですが、在宅移行の際に一番初めに利用するサービスである訪問看護や、遊びの発達支援のプロである通所事業などと連携して取り組む予定です。
- 新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行した後も感染対策を行いながら、季節のイベントや利用児者ご家族との交流イベント、きょうだいも楽しめるイベントの開催、地域イベントへの参加も行っていきます。

2 ソルウェイズの活動 その 家族

「重症児・医療的ケア児ママたちの、また働きたいを応援」

医療的ケアがあっても、保護者の付き添いなく特別支援学校や地域の学校に通学できるように、札幌市では、学校看護師の配置が整備されてきています。

しかし、保育園等での医療的ケア児の受け入れがなかなか進まず、利用時間の制限などがあり、主たる介護者となる母親は離職をせざるを得ない状況です。

そこで、ソルウェイズで運営する通所事業と保育園等の併用利用や、石狩市からの委託事業で認定子ども園への看護師の派遣事業を行います。

また、北海道内外問わず、保育園等の施設で勤務する保育士向けに、医療的ケア児について理解を進めるためのセミナー（オンライン）を開催し、受け入れ促進に寄与します。

3 ソルウェイズの活動 その 地域

「ショートステイや長時間レスパイトを身近に」

- 2022 年度に獲得した助成金や寄付金を活用し、2025 年に開設予定のショートステイのシミュレーションを行います。
- 子どもたち、保護者、そしてスタッフも、シミュレーションを通じて、長時間の預かり、夜間の子どもたちの様子、医療的ケアに慣れる必要があります。
- 通所事業での延長利用「お泊らない会」、訪問看護による制度外の長時間対応を行います。
- 月 1 回のメールマガジンや SNS、年次報告書を通じて「いけプロ」を含めた、ソルウェイズの活動を発信して、ショートステイの必要性和価値を地域に広めていきます。

ソルウェイズを寄付で応援



カレーを食べることが寄付に

西洋式缶詰工場発祥の町である石狩に誕生した株式会社イシカン、石狩の歴史と地場の美味しい食材をふんだんに使用した缶詰を販売しています。ソルウェイズの活動に共感し、食を通して応援できないかと現在新商品を開発中の同社。商品の売上の一部をソルウェイズの活動に寄付するなど、今後消費者とソルウェイズをつなぐ架け橋となっていきます。

「子を持つ親として、自分事として考えたときに、大変さははかり知れません。少しでも応援したい協力したいという思いです」（代表取締役・鈴木 圭一）

北海道を感じるスノーギフト

北海道のパウダースノーを子どもたちに贈る「スノーギフト」。これまでに道外の重症児デイサービス等を運営する NPO 法人などがこのギフトを購入しており、北海道のパウダースノーが届けられます。雪があまり降らない地域で暮らす子どもたちが雪に触れることができる、冬の楽しいイベントの一つとなっています。およそ一万円のこのギフトを購入すると、そのうち 3000 円がソルウェイズに寄付され、「いけプロ」の活動に役立てられる仕組みです。



その他の応援方法



単発寄付	金額や支払い方法を指定し寄付をすることができます。
マンスリーサポーター	毎月定額の寄付で応援。月 1000 円から始められます。
物品寄付	Amazon の「欲しいものリスト」から、物品を寄付をすることができます。
職員になる	ソルウェイズが運営する事業所で、一緒に働いてみませんか？（ https://solways.or.jp/recruit/ ）
ボランティア	有償・無償のボランティアを募集しています。
ロコミや SNS でシェア	人に話す、伝えることも大事なアクションのひとつです。ぜひ私たちの活動について、家族や友人などと話してみてください。

寄付用途紹介

ショートステイのシュミレーション

重症児デイサービスで、ショートステイが始まった際の宿泊についてのシュミレーション「お泊まり会」の実施

多機能型重症児者デイサービスで宿泊を伴わなくても、家族のレスパイトや利用児の自立活動の一つに利用時間を夜間まで延長する「お泊らない会」の実施

視察・調査

医療的ケア児のショートステイをしている施設の視察・視察後の報告会

ソルウェイズで運営する事業所を利用児・ご家族にアンケートを行い、ニーズ調査の実施

啓発

- HP の改修や SNS の運用
- ショートステイの運営に関する勉強会の実施
- プロジェクトの資料作成・図面作成・書類作成・雑費
- 「いけプロ」のメールマガジン配信
- 「いけプロ」ロゴマーク作成 企業訪問



医療法人財団はるたかの会
レスパイトハウスやまぼうしに
視察に行きました。

NPO 法人ソルウェイズが進めている

「北海道で暮らす医療的ケア児の未来を拓くプロジェクト」を展開していくにあたり、継続寄付（マンスリーサポーター）と単発寄付を募集しております。こちらからよろしくお願いします。

継続寄付
（マンスリーサポーター）



単発寄付



法人サポーター

株式会社 ネオライフ



株式会社
クラノス



株式会社 イシカン

株式会社 瓦越後屋商店

北海道
ビーエム工業

株式会社まるいち さいとう薬局 ベスト・ケア・サポート 未来介護福祉タクシー

発起人（順不同・敬称略）

NPO法人あえりあ	NPO 法人あいまち	TAK	NPO法人テレサの丘
岡本和徳 (NPO 法人子ども未来)		(一社) 北海道介護支援専門員協会	
佐藤誠 (大平洋建業 (株))		奥村志乃 (NPO 法人 for R)	

加藤千穂	内多勝康	岩井正一	福満美穂子	本郷朋博
村尾晴美	岩下和裕	牧野准子	水上八行	西部寿人
久保悠	眞保隆	小山内淳子	猪狩智子	木村光宏
久保真季	見谷文子	岩崎京子	西村純子	竹本智美
上野恵	竹浪元実	潘韋晉	渡部美千代	奥田龍人
松本夏樹	橋本陽子	木村真樹	小松陽	高木孝壽
佐々木郁子	宮城由美子	田中純	安部恵美	大澤浩司
青木真美	遠國唯	芳村幸司	中谷絵里	篠原辰二
丹羽敬介	星野絵麻	出口明美	松田幸恵	庄司あいか
野澤拓真	山本桐子	佐藤一浩	須藤育恵	城市美香
日高和泰	横山杏	島川弘美	竹本淳志	
村山文彦	山本桃子	遠國恭平	齋藤健一郎	
石嶋瑞穂	中田美穂子	村田里美	内田紘輔	

賛同人（順不同・敬称略）

(有)アット	(同)めぐる	かなえ音楽教室	(一社)スベサポ	Otete to Otete
まりな大学	NPO 法人合	マルキン工業(株)	bird/leaf	(一社)Burano
(株)あるふぁ	均整きいとす	(株)kurumi	La mysta	Pegaris(同)
(同)RsY	大平洋建業(株)	石狩設備工業(有)	Atelier Choest	(一社)weighty

サードストリート	NPO 法人あえりあ	(株)ダイトーメディア	(福)TRUST ころろ
(株)田村義肢製作所	NPO 法人まいゆめ	(株)ナースリハネット	(株)SOCIALGATE
石狩市商工会議所	つなぐ・らぼ 帯広	丸正石狩設備工業(有)	Office KURIHARA
NPO 法人あいまち	介護タクシーばぶら	言語聴覚士かめきち	(株)Piece for Smile

NPO 法人イコロ村	(同)札幌就労支援協会	(株)Moon・PROMOTION
NPO 法人こども未来	NPO 法人こどもみらい	(株)いろはなケアサービス
NPO 法人テレサの丘	NPO 法人にこっと秋田	(株)芽生コーポレーション
(株)北海道ビーエム工業	NPO 法人みらい予想図	NPO 法人すこやかライフ
全国医療的ケアライン	こどもリハビリかめきち	(株)ナーシングホームさくら

賛同人（順不同・敬称略）

（株）東日本住宅総合サービス	（福）石狩市社会福祉協議会	訪問看護ステーションクオル
石狩市身体障害者福祉協会	江別介護ママの会	札幌 NICU ピアサポート with
石狩市ボランティア連絡協議会		訪問看護ステーション結まーる
石狩市民生委員児童委員連合協議会		NPO 法人阿波グローバルネット
（福）石狩友愛福祉会 石狩希久の園		リフレッシュ・デイサロン温泉堂
NPO 法人 子育てネットゆめもくば		NPO 法人ユニバーサルデザイン推進協会
ノースペインティングサービス（同）		NPO 法人福祉住環境ネットワークこうち
ユニバーサルデザイン（有）環工房		（一社）北海道こどもホスピスプロジェクト
愛媛県重症心身障害児（者）を守る会		介護タクシー民間救急ベスト・ケア・サポート
NPO 法人キープ・ママ・スマイリング		
地域サポートセンターみなみ 障がい児通所支援事業所みなみ		
熊本グリーフピアサポートグループみんなの和～空の子がくれた繋がり～		
長期入院の子どもと付き添い家族を支える会 byNPO 法人イナナクル		
荒井聡（元衆議院議員）	戸谷剛（医療法人財団はるたか会）	
山本博司（参議院議員、元厚生労働副大臣）	飯倉いずみ（医療法人財団はるたか会）	
荒井優（衆議院議員）	土島智幸（医療法人稲生会 理事長）	
加藤千穂（永田町子ども未来会議事務局長）	高井理人（医療法人稲生会 歯科科長）	
たけのうち有美（立憲民主党（札幌市議会議員））	高波千代子（医療法人稲生会）	
佐藤貴虎（旭川大学短期大学部）	田村卓也（手稲溪仁会病院 小児科副部長）	
太田由美子（北海道重症心身障害児（者）を守る会）	伊勢カンナ（北海道大学病院）	
佐々木大介（北海道議会議員）	磯邊朋美（医療法人稲生会）	
松本喜久枝（石狩市議会議員）	平清水智実（市立札幌病院）	
イワサキカズヒト（東広島市議会）	藤田剛（放送大学教養学部教養学科）	
運上一平（荒井ゆたか事務所・秘書）	佐藤一浩（緑ヶ丘療育園）	
秋元恭平（荒井ゆたか事務所・秘書）	瀧田慶子（特別支援学校）	
鹿野牧子（北海道社会福祉協議会）	齋藤朝子（埼玉県立日高特別支援学校）	
安達陽子（石狩商工会議所・経営支援課長）	林美佐（静岡県立西部特別支援学校）	
長木恭吾（石狩商工会議所）	奥村志乃（函館中央病院）	
岡本收司（北海道保健福祉部 地域医療推進局長）	渡部玲美（bird/leaf）	
鈴木勝也（石狩商工会議所 事務局長）	岡勇樹（株）デジリハ）	
加藤光治（石狩商工会議所 専務理事）	松島陽子（㈱アット）	
小西優佳（北海道大学）	鈴木幸一（鈴敏建設）	
畠山明子（星槎道都大学）	本郷朋博（ウイングス）	
石村珠美（千葉科学大学）	鈴木圭一（㈱イシカン）	
齋藤早香枝（札幌保健医療大学）	加藤嘉夫（㈱野の花舎）	
杉岡直人（北星学園大学名誉教授）	相澤香利（（一社）weighty）	
鹿内あずさ（北海道文教大学 看護学科）	村上潤（ポップンクラブ）	
小坂政万（市立札幌北翔支援学校）	西本真典（石狩希久の園）	

賛同人（順不同・敬称略）

板垣美奈子（いろはな本町）	佐藤隆哉（㈱特殊衣料）
松井晃（KIDS CE ADVISORY）	曾根岡政人（㈱特殊衣料）
遠藤武（Hair Make GANEZA）	澤田亜沙子（㈱特殊衣料）
田中純（ にじいろスマイル）	伊東宏二（㈱特殊衣料）
寺田真実（心魂プロジェクト）	千葉憲司（㈱特殊衣料居宅事業課）
木元国友（NPO 法人あいまち）	高佐康平（㈱遠藤建築アトリエ）
南美佐（札幌市ひまわり整肢園）	荒木田ちぐさ（㈱遠藤建築アトリエ）
廣田絵舞（児童デイサービス翔）	長谷川拓也（㈱遠藤建築アトリエ）
沼子広美（生活介護はなみずき）	石月健太郎（㈱遠藤建築アトリエ）
三浦啓子（福祉村通所生活介護）	水戸和恵（NPO 法人 U-mitte）
峯田清志（NPO 法人あえりあ）	大岸舞（NPO 法人 U-mitte）
笠間真紀（NPO 法人ままはーと）	早川佳穂里（NPO 法人 U-mitte）
伊藤毅（NPO 法人さくらプラス）	山下七美（NPO 法人 U-mitte）
丹羽敬介（北海道木育マイスター）	小林謙一（NPO 法人 U-mitte）
大久保夏樹（（福）ワナーホーム）	岡田恵（NPO 法人 U-mitte）
斎藤優斗（㈱いろはなケアサービス）	築保めぐみ（NPO 法人 U-mitte）
永田尚子（名東区手をつなぐ育成会）	榊（江別介護ママの会）
松尾清美（（同）KT 福祉環境研究所）	浅野裕美（江別介護ママの会）
内野愛（放課後等デイサービスままち）	水野文子（江別介護ママの会）
伊藤翔太（NPO 法人ツリーフィールド）	柴田（江別介護ママの会）
マツシタカナエ（活き生きネットワーク）	中川（江別介護ママの会）
増子邦行（認定 NPO 法人フローレンス）	杉原真己（江別介護ママの会）
見谷文子（NPO 法人はあもにい永平寺）	古川 恵江（Team Dosanco ）
奥田龍人（認定 NPO 法人シーズネット）	長瀬千佳子（Team Dosanco ）
屋宜佳成（いきがいサポートステーション）	新保英典（こどもみらい園）
奥田萌（北海道こどもホスピスプロジェクト）	図司美智代（こどもみらい園）
坂本春香（認定 NPO 法人 NEXTEP 事務局）	津山亮（こどもみらい園）
小西貴子（重心児特化型デイサービス ekubo）	木村真樹（（同）めぐる）
高橋優介（ワークショップデザイン describe with）	長谷川友紀（（同）めぐる）
五十嵐純子（小児患者保護者のおしゃべり会代表）	東重孝（花川北民生委員）
濱田円（NPO 法人福祉住環境ネットワークこうち）	寺尾桂子（花川北民生委員）
細束真由美（NPO 法人阿波グローバルネット事務局）	尾杉洋（花川北民生委員）
中島徳（ NPO 法人ユニバーサルデザイン推進協会）	梶原正一（花川北民生委員）
田代好輝（ノースペインティングサービス ビス（同））	寺本マチ子（花川北民生委員）
吉永美佐子（NPO 法人 高齢者快適生活づくり研究会）	加藤和子（花川北民生委員）
冬部拓海（BRAIN-神経系・脳卒中専門リハビリサービス）	加藤康郎（花川北民生委員）
池田啓子（㈱特殊衣料）	向井重弘（花川北民生委員）
藤本欣也（㈱特殊衣料）	向井裕子（花川北民生委員）
平吹天人（㈱特殊衣料）	佐々木猛紀（花川北民生委員）
笹木素美（㈱特殊衣料）	土肥繁義（花川北民生委員）

賛同人（順不同・敬称略）

佐藤千恵子（花川北民生委員）	五十嵐ミ子（花川南第一地区民児協）
遠山留美子（花川北民生委員）	加藤公敏花川南第一地区民児協会長）
長谷部愔子（花川北民生委員）	小林瑞穂（訪問看護ステーションダイジョブ）
長谷部怜治（花川北民生委員）	草木あずみ（訪問看護ステーションあいん）
高橋弘美（支援員）	三栖ゆきえ（訪問看護ステーションあいれもん）
松尾拓也（石狩市教育委員）	笠原係長（エア・ウォーター・ライフサポート㈱）
安保隆之（花川南第一地区民児協）	高山幸喜（エア・ウォーター・ライフサポート㈱）
宮下博人（花川南第一地区民児協）	佐藤功（エア・ウォーター・ライフサポート㈱）
成田 孝（花川南第一地区民児協）	山田主任（エア・ウォーター・ライフサポート㈱）
長川昇（花川南第一地区民児協）	森谷昭（エア・ウォーター・ライフサポート㈱）
平出直花川南第一地区民児協）	藤本勝智（エア・ウォーター・ライフサポート㈱）
大原久子（花川南第一地区民児協）	乾康夫（NPO 法人ユニバーサルデザイン推進協会）
岩尾美（花川南第一地区民児協）	辻元寿（NPO 法人ユニバーサルデザイン推進協会）
鈴木ひみ（花川南第一地区民児協）	
中川京子花川南第一地区民児協）	
中川智久（(福)あきの会 障がい児者医療生活支援ホーム虹の家）	
板崎美穂（愛媛県医療的ケア児者等家族会『ムーブオン媛ネット』）	
佐々木智教（医療福祉センター札幌あゆみの園地域支援部地域支援課）	
福満美穂子（NPO 法人なかのドリーム理事 東京都医療的ケア児者親の会）	
綿谷千春（長期入院の子どもと付き添い家族を支える会 byNPO 法人イナンクル）	

高木孝壽	細川亜弥	山本 麻衣	出口明美	中村詩織	菅原慎平
山本桐子	内田紘輔	岩下和裕	遠國唯	坂井かほる	岩間旭
松本夏樹	尾崎奈緒	丸山敦仁	石川将太	関聖二	築保めぐみ
日高和泰	宇田有佑	吉澤和子	小林まり恵	Keina	西尾京子
要朗子	沼田やよい	小川絵里子	斉藤一修	城市美香	城市恵理
高橋亜由美	石川一美	厨川大祐	横山杏	城市健吾	城市承平
佐藤めぐみ	久保真季	松井知子	岡部泰子	城市祐樹	飯田祥男
菅澤恵梨	山本恵理子	時崎由美	仲村佳奈子	高林美由起	橋本めぐみ
中谷絵里	佐々木尚美	栗澤梨絵	ナワタハルカ	諏訪園春菜	松井晃子
高橋奏至	葛西雅	竹内和美	須藤耕仁	大澤浩司	佐藤 真貴
富樫徐子	住吉央行	山口桔平	加藤あさ美	鈴木博子	矢本秀幸
引地 こずえ	中野渡志穂	富樫幸代	成田奈美	高橋寿美代	塩田久美
城下貢	加賀屋公美	伊藤恵	竹本智美	山岸沙織	城市紗斗美
松井紗和子	中田美穂子	渡辺いと子	室井美香	及川美帆	森弘子
鈴木 雄介	安部恵美	堀 樹里	久保悠	勝田舞子	大澤 恵留美
近江静香	山本裕亮	青木真美	喜多友香	金森梢	中嶋真由子
近江淳	山本香織	村田里美	古関郁子	磯邊智	三井愛子
大塚紗弓	島川弘美	福田祐衣	村上玄	田邊拓矢	佐藤健一
中嶋弓子	氏家英雄	成田奈美	海谷由希	清水和美	上田健一
橋本陽子	加藤志乃	山田綾	加藤春美	佐藤真彰	高橋恵

賛同人（順不同・敬称略）

田澤達彦	小林 奈緒	佐藤	安達教子	海谷砂由里	久保田強
太田優希	武田玲子	田中奈々絵	長久保吏乃	海谷政貴	齋藤孝志
郷田容子	武田修	丸子美生子	大居祥子	櫛間秀子	野尻真寿美
佐久間美咲	岩間知美	小山内大地	石井ちひろ	加藤真理	青木 梅子
上野恵	小松陽	関口和佳子	田澤あずさ	工藤花琳	伊藤雅彦
小坂理恵	三浦麻結子	幅田有美	松田幸恵	工藤美帆	西館愛未
長谷川麻衣	二上佳奈	斉藤美由紀	高橋弘美	ササキタカヤ	小林菜々美
小山内淳子	岩立頭一郎	木村鳳憲	稲葉うらら	坪田清美	笹原理司
小池哲司	小関純子	中田歩昇	渡辺記久子	根本壽夫	平野ますみ
藤井望	花田佳祐	飯田鉄蔵	長村佐知子	田村智佳子	星野絵麻
山内梨沙	三村枝里子	飯田圭子	板垣梓	梅田さやか	光原ゆき
渡辺憲一	井原碧希	飯田ミ子	やましたみさと	遊馬あゆみ	三島照子
渡辺悦子	佐藤ハル子	初澤百合子	矢満田夏織	西山素子	仲尾悦子
谷原沙織	秋田まり	岸本美久	中澤真樹子	若松輝郎	法量正子
吉村由佳	荒木比沙子	大和田博嗣	広島理恵	伊藤悠祐	鈴木涼子
石川杏奈	荒木健太郎	光原ゆき	林直美	沼畑理恵	
熊倉英彦	荒木幸子	田中俊行	遠藤謙一良	久保田未優	
脇坂百合香	荒木博	榎本哲史	大塚睦美	菅原江美	
松本雅江	荒木亮賢	関友子	真壁香織	久保田誓	

NPO法人ソルウェイズ 2022年度 年次報告書

発 行 者	特定非営利活動法人ソルウェイズ
発 行 所	札幌市中央区北10条西19丁目1－1
本 文	大庭 美菜
デザイン	一般社団法人チャーミングケア
編集担当	運上 佳江（特定非営利活動法人ソルウェイズ）
企画協力	合同会社めぐる